

帰化植物の話

ー東京郊外で多くなった帰化植物ー イケノミズハコベとオオカワヂシャ

全国農村教育協会 廣田伸七

東京都の西部を流れる多摩川の支流浅川の川岸に最近帰化植物のイケノミズハコベとオオカワヂシャが多く見られるようになった。10年ぐらい前はあまり気付かなかったが、この数年の間に急激に広まり、特にオオカワヂシャは現在では在来種のカワヂシャよりもオオカワヂシャの方が個体数が多くなっている。この両者は「植調誌」の今号の似た草の見分け方(2)(23～27頁)のミゾハコベとミズハコベの項でイケノミズハコベ。カワヂシャとエゾノカワヂシャの項でオオカワヂシャも紹介しているのでそちらを参照されたい。

イケノミズハコベ(アワゴケ科)(*Callitriche Stagnalis* Scop.) 越年 ▲イケノミズハコベ

生は、在来種のミズハコベに似ているが、ミズハコベより全体がやや大型。ヨーロッパ原産で1990年頃から山梨県富士吉田市のクレソン(オランダガラシ・アブラナ科)栽培田に帰化していた。茎はよく分枝して広がり長さ80cmにも達する。葉は倒卵形で対生、長さ5～15mm、茎先の葉はかたまって着く。全体は水中にあるが茎頂部の葉は水面に浮かぶ。川岸では水の流れがゆるやかな場所の川岸に



生育している(ミズハコベの記載は25頁。またイケノミズハコベのカラー写真は2頁に掲載してあるので参照されたい)。

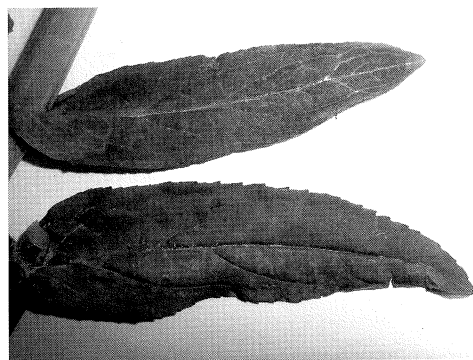
オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)(*Veronica anagallis-aquatica* L.) 多年生は、1920年代に帰化したと推定されていて、現在では関東から中部地方に多く見られるようである。在来種のカワヂシャ、エゾノカワヂシャの仲間で、

全体はカワヂシャに似るがカワヂシャよりもやや大型。カワヂシャとの区別点はオオカワヂシャの葉の鋸歯は少なくてほぼ全縁に見えるのに対し、カワヂシャの葉の鋸歯はやや大きく明瞭に見えるので葉の鋸歯で見分けがつく(下の写真参照)。また、オオカワヂシャの花

冠は淡紫色で紫色の条があるのに対して、カワヂシャの花冠は白色で淡紫色の条があるのでこの点でも見分けることもできる。なお、最近ではカワヂシャとオオカワヂシャの交配による雑種もあるといわれている(カワヂシャの記載は26頁、カラー写真は3頁に掲載してあるので参照されたい)。オオカワヂシャは川岸や川岸に近い草地に生育している。



▲オオカワヂシャ

▲上 オオカワヂシャ・下 カワヂシャ
鋸歯に注意